

学校教育の 努力点（主題）	わくわくがいっぱい！幼稚園大好き ～様々なつながりを通して～	II
------------------	-----------------------------------	----

1 実践のねらい

幼児は生活の中で友達、教師等、人とつながる心地よさを感じている。そして、そのためには個の充実が必要だと考える。今年度は、様々なつながりを通して何が育っているかを捉え、そのために必要な教師の援助や環境の構成を実践を通して探っていきたいと考えた。

2 実践のねらいに迫るための手立て

- ・ 学年ごとの育ってほしい姿を共通理解し、環境の構成や教師の援助を指導計画（週案）に取り入れ、実践する。
- ・ 日々の記録や研究保育、事例検討を通して、テーマに沿った視点で幼児の姿を読み取り、教師の援助や環境の構成について話し合い、反省・評価をして次の指導に生かす。
- ・ 各クラスの掲示やホームページ、クラスだよりなど、園の実践や幼児の育ちを発信し、保護者や地域の園教育の理解や協力が深まるようにする。

3 実践の内容

(1) 3歳児 6月上旬 「いっぱいの人に乗っているね」事例検討より

不安な気持ちを様々な行動で表すA児の姿から、A児が安心して過ごし、したいことを楽しむ経験を積み重ねられるような環境の構成や援助を心掛けた。3歳児は思いが満たされ、心地よさを感じられる人やものの存在が園生活を楽しむ基盤となることが分かった。教師は幼児理解を深め、一人一人が自分から動き出したいくなるような環境の構成や援助が大切である。

(2) 5歳児 9月上旬 「D児のパーティー」事例検討より

転園するD児のために、友達とパーティーの準備を互いに思いを出し合いながら喜々として進めていた。これまで教師が個々のしたいことを実現できるよう丁寧に関わってきたことが個々の充実として積み重ねられた。その結果自己発揮する喜びを感じ、自信となって友達と生活を作る楽しさを感じる姿として表れていた。

(3) 預かり保育、日々のつながり～少人数の生活を通して～

43名の園児が日々の保育を通して、異年齢の幼児が自然に触れ合い、関わる姿が見られる。特に預かり保育は長い時間を一緒に過ごすことから、クラスの友達と互いの理解が深まる、異年齢の幼児に優しく接するなど、少人数ならではの関わりが生まれた。また、預かり保育の教師と職員間で連携をとることを心掛けた。その結果、新たな幼児理解が生まれ、保育に生かしたり、保護者に話すきっかけにもなったりした。

4 成果と課題

自己評価結果として、教師自身が個々の幼児の心の安定が基盤となり、そこから主体性、人（教師、友達）や物とのかかわりが生まれていくことを改めて学ぶことができたこと、そして預かり保育も含めた園生活全体を通して個々の幼児の姿を丁寧に読み取りながら保育を実践する視点や姿勢をもって実践することができた。保護者アンケートでも「先生や友達と関わる楽しさやうれしさを感じているか」「子どもの興味や関心、思いを大切にされた保育をしているか」の項目で9割以上が「そう思う」と答えており、家庭にも理解されたことが伺える。一方、「地域とのつながりを大切にされた保育をしているか」の項目は他の項目より評価が低かった。学校関係者評価として、「行政に幼稚園の現状伝え、要望することも大事。地域として協力できることはしていく」との意見をいただいた。今後は情勢をみながら、地域との連携やつながりを取り入れた保育実践をしていきたい。

5 来年度に向けて

コロナ禍の生活から徐々に以前の生活を取り戻しつつある。地域とのつながりを改めて見直し保育に取り入れていきたい。また、外部からの保育に対する意見を取り入れた学校評価を作成し、保育内容の充実や園教育の理解を深められるように取り組んでいきたい。